

# 心理学専攻

Graduate School of Humanities / Major in Psychology

募集人員：修士課程 10名／博士後期課程 3名 | 開講形態：**昼間・夜間** | キャンパス：市ヶ谷

主な進路：教職、公務員（家庭裁判所調査官、各県心理職、各県警科学捜査研究所、法務省）、発達支援、情報通信、リサーチ会社、博士後期課程への進学、大学や研究機関など

## 認知と発達の領域を中心に、幅広い専門能力を身に付ける。

特定の領域に偏らず、心理学のさまざまな領域を学びます。そのため、知覚・睡眠・発達・発達臨床・言語・教育・行動分析・犯罪・社会・記憶・学習・音声学といった多様な領域のエキスパートによる集団指導体制をとっています。

また、実験・検査・面接・調査や統計など、心理学の研究法に関する技術を修得できるようにカリキュラムを編成しています。心理学の研究法を修得しながら高度なコンピュータ・リテラシー、文章表現力、プレゼンテーション能力が身に付きます。

さらに、所定の条件を満たすことにより学校心理士あるいは学校心理士補の受験資格を取得できます。

一般入試に加え、社会人入試も実施しています。社会人入試（修士課程）により入学した院生は、所定の手続き後、14条特例\*を利用できます。学内のライフスキル教育研究所とも連携し、エビデンスに基づいた研究実践を展開します。

※大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例（P.27参照）

本専攻では、臨床心理士試験の受験資格を得ることができません。ご希望の方は人間社会研究科臨床心理学専攻の案内（P.54）をご覧ください。

### アドミッション・ポリシー

（学生の受け入れ方針）

高度な心理学研究に取り組むために欠かせない基礎的な知識を有し、心理学を生かした社会貢献に興味がある学生を、出身校や学部は問わず幅広く受け入れています。一般入試では心理学の用語と研究法の理解度、英文読解力、面接ではコミュニケーション力を重視して選抜を行っています。社会人入試では英語の代わりに研究計画のプレゼンテーションを評価しています。博士後期課程の入試では、試験科目は修士課程と同じですが、心理学関連の研究・教育能力の発展可能性に重点を置いて選抜しています。

### カリキュラム・ポリシー

（教育課程の編成・実施方針）

修士課程では認知と発達という2本柱でカリキュラムを構成しています。専門的な知識を修得する科目群（主に特論）と研究技法を学ぶ科目群（主に演習）から、個々の興味に応じてバランス良く柔軟に履修できる体制を整えています。博士後期課程では研究に専念し、専門的な能力をさらに進展させることを重視しています。修士や学部生に対する指導の機会を活用し、心理学の教育技術の修得も目指しています。修士・博士後期課程ともに、教員全員による共同指導体制を敷いており、指導教員以外の先生にも自由に相談できることが特徴の一つです。

### ディプロマ・ポリシー

（学位授与の方針）

心理学専攻では、人間の心の認知や発達に関する知識と技能を用いて、主導的な立場に立ち、社会を牽引することができる人材を育成することを目標としています。具体的には以下のことの高水準での修得を目指します。人の認知について科学的理解をすることができる。人の発達について科学的理解をすることができる。観察・実験・調査を通して、心の機能を測定し、分析することができる。国内外の先行研究や社会的要請をふまえて、自ら課題を設定することができる。研究・学習成果を的確に他者に伝えることができる。研究・学習目標を達成するために、他者と協同することができる。博士後期課程ではさらに高度な心理学の知識と技法を習得し、研究成果の発信力や教育力を高めることも期待しています。なお、論文の評価基準および授与規程は「法政心理ネット」にて公開しています。

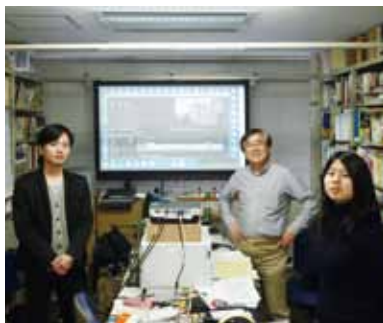
## 研究室紹介 | 古くて新しい問題

### 知覚することから始まる人の認知の解明

吉村教授 | 錯覚や見間違いも、見ることの法則性が生み出す心の法則

「認知」とは、身の周りにあるものを知覚することから始まり、それを記憶し、それらを材料に思考・推理していく心の働きです。私たちの心理学専攻では、この「認知」を、もう一つの柱である「発達」とともに、心理学にとって重要で中心的な研究対象として、さまざまな角度から解明することを目指しています。中でも「知覚」は、身の周りの映像や音、香りや振動などの物理的刺激が心に届く入口部分を担当する研究分野で、科学的検討が行いやすい領域です。例えばアニメーションは、静止画を次々に素早く見せているのに滑らかな動きと知覚されます。物理的事実と心理的知覚物の間にあるこのようなズレを科学的にかつ法則的に捉えることを私たちは目指しています。

※本専攻には、このほかに精神生理・知覚・言語・音声・発達・犯罪・行動分析などの分野を扱う、全部で8の研究室があります。



## Voice |



博士後期課程 在学中  
太田 碧

【研究テーマ】  
アニメーションキャラクターの顔、魅力について

### 数少ない心理学的なアニメやキャラクターの研究成果を 実際のアニメ制作などの現場に還元したい

#### 私の研究

私は、アニメーションキャラクターについての研究をしています。特にキャラクターの顔の魅力や、実際の人間との違いに注目し、認知に差があるのかを実験と統計を用いて明らかにする研究に取り組んでいます。現在、アニメやキャラクターについての心理学的研究は少ないため、研究において得られる結果は、この分野においてとても有益であると考えています。

#### 将来の目標

研究を続けていきたいと考えています。心理学的なアニメやキャラクターの研究はまだ数が少ないので、数を積み重ねて新たな発見をしていきたいです。また、研究の成果を実際の現場に生きる形に変化させていくことが目標です。魅力的なキャラクターの作成や、実写化に際して原作の魅力を損なわないようなシステムの開発を行いたいと考えています。

## ■専任教員と担当科目（2016年度）※年度により授業を持たない場合があります。 専 専門領域 研 研究テーマ 担 担当科目

**越智 啓太 教授** 専 犯罪心理学、社会心理学  
研 犯罪心理学、特に犯罪捜査における心理学の応用についての研究  
担 心理学研究法演習Ⅰ／Ⅱ 社会心理特論 犯罪心理特論

**高橋 敏治 教授** 専 生理心理学、睡眠科学、精神保健学  
研 時差症候群とシフト勤務に関係する精神作業能力やP300の変化、サーカディアンリズム睡眠障害  
担 心理学研究法演習Ⅰ／Ⅱ

**福田 由紀 教授** 専 言語心理学、教育心理学  
研 浅い処理から見た文章理解モデル、コミュニケーションにおける言語活動の役割  
担 心理学研究法演習Ⅰ／Ⅱ 言語心理特論 言語心理演習

**吉村 浩一 教授** 専 知覚・認知心理学、心理学研究法  
研 逆さめがね着用などによる変換された視覚世界への順応過程の研究、心理学研究法、アニメーションにおける動きの研究  
担 心理学研究法演習Ⅰ／Ⅱ 知覚運動論演習 心理研究法特論

**島宗 理 教授** 専 行動分析学、産業組織心理学  
研 パフォーマンス・マネジメント、インストラクショナルデザイン、組織行動マネジメントや消費者行動に関する研究  
担 心理学研究法演習Ⅰ／Ⅱ 発達行動特論 学校コンサルテーション特論

**田嶋 圭一 教授** 専 音声学、言語学、言語心理学、認知科学  
研 音声言語の知覚・産出・学習に関する実証的研究  
担 心理学研究法演習Ⅰ／Ⅱ 音声言語科学特論 音声言語科学演習

**藤田 哲也 教授** 専 認知心理学、教育心理学  
研 人間の記憶を中心とした認知メカニズムに関する基礎研究と、学習場面における動機づけと学習方略との関連を中心とした教育への応用研究  
担 心理学研究法演習Ⅰ／Ⅱ 学習心理特論 学習指導特論 認知学習過程演習

**渡辺 弥生 教授** 専 発達心理学、発達臨床心理学、学校カウンセリング  
研 社会性や道徳性の発達メカニズムの解明・いじめなどの対人関係における問題の予防と心理教育プログラムの開発・展開  
担 心理学研究法演習Ⅰ／Ⅱ 発達心理特論 学校カウンセリング演習

## ■設置科目（2016年度）※開講科目は年度により異なります。（）内は単位数

- <修士課程>  
心理学研究法演習Ⅰ／Ⅱ（各1）  
学習心理特論（2）  
音声言語科学特論（2）  
社会心理特論（2）  
読書心理特論（2）  
教育心理特論（2）  
犯罪心理特論（2）  
学習指導特論（2）  
知覚運動論演習（2）  
音声言語科学演習（2）  
精神生理特論（2）  
認知学習過程演習（2）  
臨床心理特論（2）  
発達心理特論（2）  
障害児心理特論（2）  
人格心理特論（2）  
言語心理特論（2）  
精神保健特論（2）  
学校カウンセリング演習（2）  
発達行動特論（2）  
生徒指導特論（2）  
言語心理演習（2）
- 学校コンサルテーション特論（2）  
心理教育アセスメント演習（2）  
心理教育アセスメント特論（2）  
スポーツ心理特論（2）  
健康心理特論（2）  
心理研究法特論（2）  
応用心理統計Ⅰ／Ⅱ（各2）  
言語分析哲学研究Ⅱ 1・2（各2）  
古代哲学史研究Ⅱ 1・2（各2）  
近代倫理学史研究Ⅱ 1・2（各2）  
実践哲学研究Ⅱ 1・2（各2）  
科学哲学研究Ⅱ 1・2（各2）  
超越論哲学研究Ⅱ 1・2（各2）  
日本古文書学Ⅰ／Ⅱ（各2）  
日本古代史研究Ⅰ／Ⅱ（各2）  
日本古代史料研究（2）  
日本中世史研究（2）  
日本近世史科学Ⅰ／Ⅱ（各2）  
日本近代史研究Ⅰ／Ⅱ（各2）
- <博士後期課程>  
心理学特殊研究Ⅰ／Ⅱ

## ■修了生の研究テーマ

- 不安喚起の差異からみた入眠期の脳波・自律神経活動による精神生理学的検討
- 子どもの発達に関する知識が育児ストレスに及ぼす影響
- 商品名に含まれる音相の違いが購買意欲、商品画像の選択に与える影響
- 連続殺人事件における犯行形態からの犯人属性の推定に関する研究
- 人物同定再認における幸福顔優位性の生起因 -再認の二過程説による検討-
- 漢字・ひらがな・カタカナの書き分けと印象の違いについて  
-日本語表記に関する実証的研究-
- 空間的運動情報が時間知覚に与える影響 -S効果における等速運動仮説の検証-
- オノマトペの感覚関連性および表記形態が意味理解に与える影響  
-感覚情報を測定する評価用語への応用を目指して-
- 次元の連続性破綻によるアニメ視聴理解への影響の差について

入試問題や14条特例などについて詳しくはWebで  
専門分野の試験科目のうち、用語説明の出題については日本心理学諸学会連合が主催する心理学検定の「心理学検定キーワード」のうち、人名などを除いた用語の中から出題します。また、14条特例の適用を受けるための手続きなどは下記のURL（法政心理ネット）で詳細をご確認ください。

URL <http://www.hosei-shinri.jp/>